

1. 件 名：新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（東海第二（1273））

2. 日 時：平成30年9月18日 10時00分～12時15分

15時00分～19時25分

3. 場 所：原子力規制庁 9階D会議室

4. 出席者

原子力規制庁：

（新基準適合性審査チーム）

名倉安全管理調査官、江寄企画調査官、吉村上席安全審査官、津金主任安全審査官、

植木主任安全審査官、三浦安全審査官、宇田川原子力規制専門職、竹内技術参与、

山浦技術参与

事業者：

日本原子力発電株式会社：開発計画室 室長代理 他28名

東北電力株式会社：土木建築部（原子力建築） 主任 他2名

東京電力ホールディングス株式会社：原子力設備管理部 建築技術グループ 副長 他4名

中部電力株式会社：原子力土建部 設計管理グループ 課長 他2名

北陸電力株式会社：原子力本部原子力部 原子力耐震技術チーム 主任 他2名

中国電力株式会社：電源事業本部（耐震建築） 課長 他1名

電源開発株式会社：原子力技術部 設備技術室 担当 他2名

5. 要旨

（1）日本原子力発電から、9月13日及び本日の提出資料に基づき、東海第二発電所の工事計画認可申請に係る耐震性に関する説明書及び津波への配慮に関する説明書について説明があった。

（2）原子力規制庁から主に以下の点について指摘を行った。

＜原子炉建屋地下排水設備について＞

- 地震時の止水壁の損傷による地下水流入量の評価の信頼性を確保するため、止水壁のひび割れの箇所及び透水係数の設定の妥当性について、整理して提示すること。
- 地下水を原子炉建屋基礎盤底面より低いレベルに抑制する機能の耐震性及びその機能を担保するために必要な各設備の性能について整理して提示すること。
- 本件の工認申請書への反映箇所について、早期に整理して提示すること。

＜水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せに関する検討＞

- 原子炉建屋の機器の設計に係わる部位の影響検討について、代表波であるS_s-D1のみの評価結果のみならず、他の基準地震波及びばらつきの影響が網羅的に評価されているか確認し、整理して提示すること。

＜原子炉建屋3次元FEM解析による面外振動の設備に対する影響評価＞

- 3次元FEM解析の検討用地震波として、S_d-D1を代表波として選定の考え方を整理して提示すること。

- 機電設備の水平2方向の検討に、3次元FEM解析による面外振動の影響評価をどのように取り込むか、整理して提示すること。

<漂流物による影響について>

- 防潮堤の内側における漂流物の検討概要、検討対象漂流物の抽出及び漂流物荷重の算定の記載を再検討し、影響評価フロー等と結論が整合するよう整理して提示すること。

(3) 日本原子力発電から、本日の指摘等について了解した旨の回答があった。

6. その他

提出資料：

- ・ 工事計画認可申請書 基本設計方針比較表 (津波)
- ・ 東海第二発電所 浸水防護施設の強度計算書における敷地に遡上する津波時の許容限界の考え方について
- ・ 振動特性係数 R_t の設定について
- ・ 補足 340-7 水平2方向及び鉛直方向地震力の適切な組合せに関する検討について
- ・ V-2-1-1 耐震設計の基本方針の概要
- ・ V-1-1-2-2-1 耐津波設計の基本方針
- ・ V-2-1-9 機能維持の基本方針
- ・ V-2-1-4 重要度分類及び重大事故等対処施設の施設区分の基本方針
- ・ V-2-10-2-1 浸水防護施設の耐震計算結果
- ・ V-2-4-2-2 使用済燃料貯蔵ラックの耐震性についての計算書
- ・ 原子炉建屋3次元FEM解析による面外振動の設備に対する影響評価について
- ・ 東海第二発電所 原子炉建屋地下排水設備の信頼性向上について
- ・ V-3-別添3-1 津波への配慮が必要な施設の強度計算の方針
- ・ V-2-11-2-1 燃料取替機の耐震性についての計算書
- ・ V-2-11-2-2 原子炉建屋クレーンの耐震性についての計算書
- ・ 東海第二発電所 工事計画に係る説明資料 (V-1-1-2-2 津波への配慮に関する説明書)
- ・ 建物・構築物の耐震計算についての補足説明資料 補足-370-8【使用済燃料プールの耐震性評価に関する補足説明】